

千秀だより

横浜市立千秀小学校 令和5年(2023)11月1日

11月号

URL : www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/senshu/



千秀小の強みを生かして

児童支援専任 伊藤 一美

芸術の秋、スポーツの秋、読書の秋…と何をするにも取り組みやすい爽やかな気候に子どもたちの活動も充実したものとなっています。1・2年生は、新江ノ島水族館遠足を通して、公共のマナーを守って見学を楽しみ、仲を深めました。3年生は、区の音楽会に向けてお互いの頑張りを認め、高め合いながら練習に励んでいます。4・5年生は上郷体験学習を通して仲間との絆を深め、農作業や自然観察などの本物に触れて感動する体験を味わっていました。6年生は、心を一つに音楽集会の演奏に取り組み、全校児童に音楽の楽しさや素晴らしさを伝えました。どの学年も実りの秋となる心豊かな時間を過ごすことができます。

さて、今年度、児童支援専任を務めることになり、昨年までとは違った立場から全校児童一人ひとりと関わることができています。その中でも、毎朝正門に立って子どもたちの登校を見守る時間は特別です。子どもたち一人ひとりの表情や様子を見ながら挨拶を交わします。元気よく挨拶する子、笑顔で挨拶する子、声は小さくてもしっかりと目を合わせて挨拶する子、立ち止まっておじぎをして挨拶する子とみんな異なる挨拶の仕方ですが、表情や様子から調子のよさが伝わってきます。「今日一日、その調子で頑張ってるね。」の思いを込めて、笑顔で挨拶を返します。反対に、伏し目がちで不安そうに見える子、いつもと表情が違う子には、「何か心配事あるかな？大丈夫かな？」とあえて声をかけ、返事を確認する場合があります。聞いてもらいたい思いがあれば何かしら反応があります。担任はもちろんですが、担任だけでなく、全教職員が積極的に声をかける意識をもち、何かあったときに、いつでも相談に乗れる関係づくりを大切にしています。

千秀小では、毎月、いじめ防止対策委員会を開き、子どもたちが安心・安全に通える学校・学級を目指して話し合う時間を設けています。また、10月には、いじめの早期発見のため、全教職員が子どものSOSを引き出し、受け止めることができるようにすることをねらいとした研修にも取り組みました。今年の横浜こども会議の話合いに参加した6年生児童が、「いじめられたことを一人で抱え込まないで話せるような、相談しやすい環境づくりが大切だ。」と思いを伝えてくれました。千秀小は、私が赴任した時から子どもたち同士のつながり、教職員とのつながり、家庭や地域とのつながりを大事にしている学校だと感じています。そんな千秀小のよさが受け継がれて、子どもたちを健やかに育てていく土台がしっかりしたものになっていると思います。

さらに、千秀小のつながりの強みとして、スマイル活動（異学年交流）があります。11月からは、5年生がリーダー役を6年生から引き継いでスマイル班をまとめていきます。5年生は、上郷体験学習でも6年生から学んだことを生かして、班を引っ張っていく姿、まとめていく姿を4年生に見せ、精一杯頑張りました。これからのスマイル活動でもその姿が期待されます。小規模校だからこそ縦のつながりを大切にし、お互いに支え合っていくことで、子どもたちの思いやりの心、助け合いの心を育んでいきたいと思っています。